

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 3 年度病虫害発生予察技術情報第 13 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 13 号（ナシ赤星病）を発表したので送付します。

技術情報第 13 号

1 対象作物名：ナシ

2 病虫害名：赤星病

3 発生地域：県下全域

4 ナシへの感染最盛期：前年より遅い（4月1半旬頃）

5 根拠

- ビャクシンからのナシ赤星病菌小生子飛散ピークは、冬孢子堆の膨潤率が 80%以上で、成熟度が 60 程度の時期である。県下 3 地点のナシ園周辺のビャクシンにおける、ナシ赤星病菌冬孢子堆調査の結果、3月5半旬時点での膨潤率は 0~20%（前年 46~80%）、成熟度は 0~7（前年 23~49）と、前年より遅く、飛散ピークが 4月1半旬であった令和元年より遅かった（表）。
- 4月1日起算の「冬孢子堆発芽最多期予想の回帰式（福岡県立園芸試験場、昭和 45 年）」によると、ビャクシンからの小生子の飛散ピークは 3月30日（前年予想日：3月24日）以降の降雨後と予想される（表略）。
- 福岡管区气象台 3月24日発表の 1 か月予報では、降水量は平年並、気温は高い~並で、特に前半の気温が高いと予想されている。

6 防除上注意すべき事項

- ナシ園周辺のビャクシン上の冬孢子堆の状況把握に努め、週間天気予報で降雨日を把握しながら、適期防除に努める。
- 薬剤防除に DMI 剤、QoI 剤、SDHI 剤、AP（アザリルピリジソ）剤を用いる場合は、薬剤耐性菌の発生リスク低減のため、異なる系統の薬剤をローテーション散布し、同一系統剤の使用回数は春季防除で年 1 回、年間でも 2 回以内にとどめる。これらの薬剤を用いる場合は、保護殺菌剤と混用することにより防除効果の維持が期待できる。
- 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し、周辺圃場への薬剤飛散防止対策を講ずる。

表 バックシンにおけるナシ赤星病冬孢子堆の成熟状況（水浸法）

調査地点	調査時期 月-旬	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年	
		膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度
朝倉市	3-5	30	8	78	27	46	23	0	0
	4-2	91	53	69	27	100	72		
	4-5	-	-	100	80	100	75		
八女市	3-5	14	4	74	30	78	39	20	7
	4-2	88	61	97	50	100	69		
	4-5	-	-	100	79	100	80		
筑紫野市	3-5	42	11	57	24	80	49	5	1
	4-2	100	70	93	53	100	92		
	4-5	-	-	100	87	100	90		
平均	3-5	29	8	70	27	68	37	9	3
	4-2	93	62	86	43	100	78		
	4-5	-	-	100	82	100	82		

注1) バックシン上の冬孢子堆を水に30分浸漬し、膨潤程度を、A：冬孢子堆が外観的に完全に膨潤、B：一部が未膨潤、C：約50%未膨潤、D：一部膨潤、E：全く膨潤していないの5段階で評価後、膨潤率と成熟度を下記の式により算出

注2) 膨潤率 = (A + B + C + D) / 孢子堆数 × 100

注3) 成熟度 = [(4A + 3B + 2C + 1D) / (4 × 孢子堆数)] × 100

注4) -は欠測

<参考> 満開日予測は「幸水」で4月7日頃と前年より9日遅く及び平年並。

(令和4年3月18日福岡県農林業総合試験場果樹部調べ)。



図 バックシン上における赤星病冬孢子堆

<冬孢子堆膨潤程度>

A: 冬孢子堆が外観的に完全に膨潤する。

B: 一部未膨潤冬孢子堆を残す。

C: 約50%未膨潤冬孢子堆を残す。

D: 一部膨らむ。

E: すべて無膨潤である。

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。

発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

- 福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右 QR コード①



最新の病害虫発生状況

- Twitter (ツイッター) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitterの本アカウント(福岡県農作物病害虫情報)へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右 QR コード②

